

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	SAJIB BALA
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	Politics of Peace Agreement Implementation: Case of the Chittagong Hill Tracts (CHT) in Bangladesh		
論文審査担当者 Dissertation Committee Member	主 査 Committee Chair 広島大学大学院国際協力研究科准教授 山根達郎 印 Seal 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 片柳真理 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 川野徳幸 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科准教授 友次晋介 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科准教授 掛江朋子		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本論文では、バングラデシュ東部に位置するチッタゴン丘陵地帯の現地住民の権利をめぐる、1997 年にバングラデシュ政府とローカル組織 PCJSS の間で締結された和平合意をテーマに、現在もその履行が十分に進展せずにいる問題について論じられた。そして、本件合意の履行に関与する諸アクターの政治的利益が交錯する構造の解明のために、本論文は、政党、軍、官僚といった国内政治アクターの現状打開を望もうとしない政治的意図の存在、これに加え、現地の住民組織間をめぐる内部対立に着目した。</p> <p>以上の議論を展開するために、本論文は全 8 章で構成された。導入部の第 1 章では論文の全体構造が示された。第 2 章では本論の分析枠組みとして、和平合意の履行をめぐる 3 つのレベル（国際、国家、ローカル）の分析アプローチについて、これまでに CHT をめぐる紛争では提示されてこなかった重層的・包括的分析の手法が示された。続く第 3 章では、チッタゴン丘陵地帯をめぐる人々の歴史的経緯についての説明が提示され、第 4 章では和平合意の履行状況をめぐるバングラデシュ政府、PCJSS 双方の見解の相違について、両者によって別々に出版された最新の報告書を比較分析した。</p> <p>さらに、第 5 章は、国内アクターの動向について、主要政党、軍、官僚組織のそれぞれの政治的思惑を分析した。第 6 章では、ローカル・アクターの分析として、和平合意にサインした PCJSS とその後設立された別の住民集団との間の不和について、そして過度な外部介入を求めないバングラデシュ国家を前に十分な影響力を示せずにいる国際アクターについて、関係者への直接のインタビュー内容を交えながら論じられた。第 7 章ではその全体的な分析として、国内アクターの政治的影響力、ローカル・アクターの不和こそが、本件和平合意の履行を妨げている最大の要因であることを論じ、第 8 章ではその結論が提示された。</p> <p>内戦における和平合意の形成過程に着目した論考は多いが、本論文はその履行段階の政治的動向について、CHT に焦点を当て多角的な分析を進めた点で類例を見ない優れた論文である。以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			